（大正十年四月二十二日第三種郵便物認可）　昭和十六年三月二十六日　磐城毎日新聞　（水曜日）　第六千七十三號　〔一〕

二十五日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵稅 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五八六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人 森合英

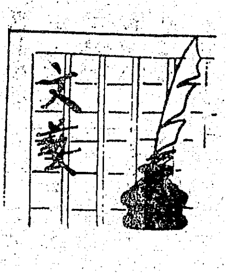
逆轉した商人の態度

はの字

私は常に家人に對して他に物を與ふるときと他から物を貰ふ時と、他に支拂ふ時と他から支拂へを受けるときとの態度が異つてはならぬと訓へてゐる。凡そ此の時の態度の異なるほど醜いものはない、高度の場合に於て品を買ふものも賣るものも同じく約束づけられた取引ではないのか、買ふ者が偉くて賣る者が卑しいと云ふものではない。

だが曾ての買手の中にはなか〱傲慢不遜なものらあるにはあつた、ところが變れば變るもの近頃の商人の態度と云ふものは、まさに主客顚倒である。物資の不足がさうなせしめたものでもあらうが客の方から頭を下げて賣つて貰はねばならぬと云ふことから斯うも態度が變るものかと思ふとき、人間と云ふものは、あさましいもの、情ないものと堪へられぬ淋しさをさへ感じてならない。

非禮極まる商人の態度には曾ての顧客に傲慢なものがあつた。それに對しての憤慨を此の機會に於てもらしてゐるものも或はあるかも知らないが共に非常時を背負つてゐる日本人同志に斯様な醜さがあつてよいものであらうか、國家も社會も詮じつめれば人と人との信頼が紐帯となつて出來てゐるものなのだ。それが失はれて、しかも日本人同志が信頼し合ひ尊敬し合はぬ様ではましてや大東亞共榮など望み得なくはないかと悲しくなる、此を砂糖屋とか木炭やのみに云ふではない。改めて貰ひたいものである。



今日の文化の意義は生活を正しく見直す事、つまり日本人としての自覺だと思ふ　（瀧井孝作）

磐城文化聯盟の事

南圭十郎

（二）

▲目的とはたらき

磐城文化聯盟の主なる目的は——

一、磐城地方の文化人を統合する事、同時に磐城地方の文化團体を連絡する事

現在磐城地方にある美術團体、寫眞會、短歌會、俳句會郷土研究會、舞踊會、音樂研究會、等色々あるがもつと廣く自然科學、教育、宗教、工藝体育の士を集め、出來れば之に鑛業、漁業、農業方面の研究的經驗家を參加させる

二、磐城地方人の生活に直接役立つ文化活動をする事

講演會、展覽會、演藝會等は云ふ迄もなく今迄もあつたがこれを統一した力で行ふ事に意義があると存じます、又今迄は供給面が狹く一部に限られてゐましたが一体かうした催物は單に市の公會堂で前賣切符で行ふ方法でなく直接鑛山工場の生産部門に持つて行かねばならぬと存じます。從つて一般の常會や工場の修養會に出る事も必要で、又出征遺家族の援護運動、出征軍人の慰問も一の仕事です。この外會員はお互ひにもつと地についた勉强をしなければなりません。いつ迄も同じ智識を固執してはなりません、それには見學會、研究會、講習會等をやつて向上に努めねばならぬと存じます、

三、磐城地方の文化の進歩のため中央文化團体及び地方諸團体と聯繫する事、

磐城文化聯盟は獨自のものですが中央文化と聯繫しその良い所をとらねばなりません及一般文化政策形態として市町村、官公署、翼贊會支部、青年團等の文化面と密接に聯繫する事が必要です。

"春日"

（城山）李姉

裏山の椿　たをりて
我が小間の　窓にかざらん
年ふれる　白磁のつぼは
はさみ持つ　ゆびにつめたし
窓ガラス　陽あたゝかく
いづこにか　うぐひすなく
はろかにも　その音をきけば
嫁ぎ行きし　友ししのばる

小さき胸

（平）圭子

淚にむせぶ
つぶらな瞳
窓邊によりて
思ひは馳する
みだれる思ひに
心はむせぶ
すすり泣く様な
靜かな音
少さき胸にしみてゆく

連續講談

異說赤穗浪士（いせつあかほらうし）

（156）

桃川若燕

畫　城木喬

吉原遊び

『サア勘平差しで初めよう』

『イエ今日は大變酩酊致して居りますから御免を蒙ります』

と勘平謝つてしまつた。翌日又本町に來ると内藏之助に右の話しをすると折よく堀部がやつて來て横川の話を聞き

『横川、貴公、酒ばかりでは駄目だ。遊びの方も散々道樂をしてゐると云はなければこの謀、上々のものではないな』

『ハ、ア』

『先づ吉原で遊興をつくしたと云へば、どんな伯父でも左様な道樂者はと云ふに違ひない。しかし伯父御は御留守居と云ふ通なお役柄、吉原は何樓で遊んだ、と尋ねられて返答の出來ぬやうでも困るが、兎に角吉原と云ふ處は斯様な場所だと云ふ事を見て置きなさい。さなくば返答に差支よう』

『成程、これは堀部の申す通り、横川、兎に角堀部と同道して吉良の要害を見て參つたらよからう』

『承はれば御尤もでござる、然らば堀部氏御案内を願ふ』

これから安兵衛、勘平の二人石町を出ると眞直ぐに藏前通りへ出てソレから淺草寺へ參詣し、奥山馬道へ拔けた。

『横川、これが馬道と云ふ、昔は白馬に乘つて往來するのが通の客と云つたもの、それから馬道と云ふ名がついたと云はれてゐる……茲は出町の編笠茶屋、これが名に負ふ日本堤、アノ寺が土手の道哲、この先が山谷堀この堤を土手八丁と云つてゐるが、しかし八丁はない、三丁半か四丁であらう』

と話し乍らブラ〱やつて來る。

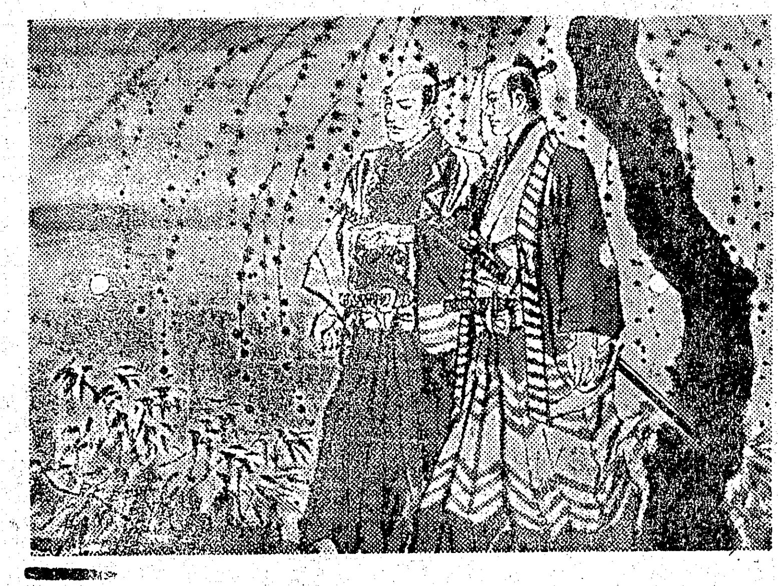
『この柳を見返り柳翌朝の別れに思はず知らず振返つてみる濃情のところを云つたものだ。これは衣紋坂、此の花街に入るとき誰でも衣紋をつくらうからかく云つたのであらうか、こゝが五十軒……』

堀部安兵衛に敎はるが初めての事で覺え切れぬので豫て用意した白扇を開き矢立を出して一々記してゐる。

『横川、こゝが仲の町、突き當りが京町、水道尻、向ふに見えるが常燈明、左へ廻ると俗に羅生門横町と云ふ』

『ハ、ア不思議なとこでござるな……』

『あるのは大店ではない。俗にチョコ〱格子と云つてな小店だ、そこの女郎が、格子から細い手を出しておまはん茲へ來て素通りする氣かえと捉へたら却々放さない、それが宛で羅生門の鬼女のやうだと云ふので此の名がある。』



『成程……』

『茲は八門遁甲の構へと云つて廓の構へを甲州流の陣法になぞらへてある』

『ハ、ア』

『横川、然う感心してないで此方へ來なさい』

安兵衛は通人だから勘平を格子先まで連れて來る。

『ソレアノ様に並んでゐるであらう。アレが女郎だ』

『フーム、彼れらは何故に斯様なところへ參りますか』

『先づ家が貧しいので、それが原因であらう。誰しも好んで斯様なところへ參るものはないからな』

『氣の毒な人達でござるな。如何に家の爲めとは云へ源平藤橘の者と日夜枕を交さねばならぬとは……』

『困つたな。横川然う澁い顏をしてはいかん、サ、これからが肝心だ』

『ハア』

『伯父御に聞かれたら堀部と一緒に遊んだと云ひなさい。茶屋は山口巴』

『ハア茶屋は山口巴……』

一々勘平は白扇に記してゐる。

『それから案内をされたは玉屋山三郎と云つて、ソレ彼處に見える大きな店だ……』

産業戰士必需品豐富荷揃
●中古純綿●純毛掘出し物地縞●正紺絣●紺織色、紋平●メリヤス●ヂャンバーヅボン●オーバー●布團類●作業服●洋服類
伊關呉服店
平市二丁目角　電話三三三番

りんしけ病
專門藥
岩里 別府淋藥　一週間分 參圓（黑）五圓（赤）
痛みある病、熱ある病
岩里 別府散　七包入 五十錢　十五包入 壹圓
製藥本舖 別府市 岩里天然堂
代理店 阿康藥局
平市古鍛冶町一〇　電話四四番　振替東京三〇〇五六番

セメント製品
セメント製風呂、タイル貼りナガシ、ゴミ箱、外種々
御用命は——
大谷建材店へ
紺屋町　電話三六六番

生徒募集
學舍長 法學士 大和田忠良
中等科 男百名
專修科 男女百五十名
教員養成科 男女五十名
磐城佑賢學舍（電話九三番）
☒校史三十年卒業生四千余名
銃後青少年錬成の道場

新体制下の女性に
◎社會待望の高尙なる婦人職業
◎又は日赤志願の準備として
産婆看護婦をお奬め致します
三十六回生徒募集
◎今申込の時期
平南町 産婆看護婦學校へ
平産婆看護婦學校
電話三〇七番

食事。
喫茶。
酒場を兼ねた。
レストラン サロン
營業時間
開店…午前十時
御食事は午前十一時より、
閉店…午後十一時限り、
平市銀座街
電話五九二番

トンカツ
とんかつ專門の店
かの家
平市仲田町
電話四六五番
出前は迅速におつとめ致します

謹告
定休日　毎月二回（第一日曜日 二十日）
從來毎月二十日を公休日と定めて居りましたが新体制に即應し、店主、店員の修養日として新たに第一日曜日にも休業することになりました
貸賣廢止
凡ての取引が現金化致しましたから在來の掛賣通帳賣を廢止することになりました御諒承願ひます
公定價格嚴守
販賣商品の價格に疑はしき點ある場合、遠慮無く當事務所電話二二三番へ御問合せ下さい
昭和十六年二月
平市田町銀座通り
平菓子商業組合
電話223番

和洋銅鐵、金物問屋
釜屋商店
電九・九九

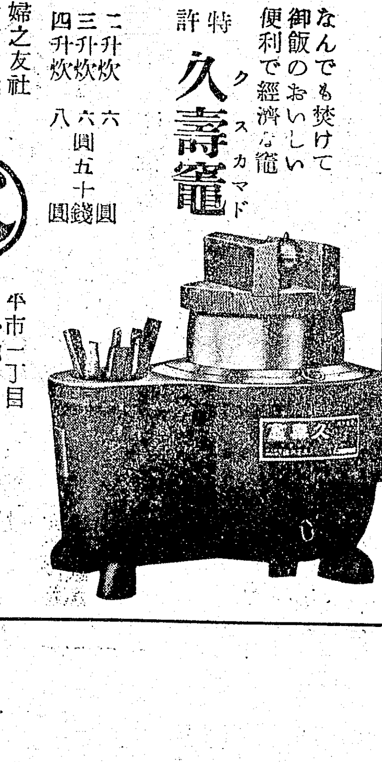
＝氣分のよい＝
＝皆様本位の＝
＝喫茶と洋酒＝
小名濱町上町
紅椿
【女店員募集】

手術室完備
外科專門　野村外科
小名濱町古港
元津村屋跡

産科、婦人科
根本醫院
平市南町　電話三四番

耳鼻咽喉科專門
レントゲン科
平驛前
高柳醫院
醫學博士 高柳博明
電三三六

なんでも焚けて御飯のおいしい便利で經濟な竈
特許 久壽竈（クスカマド）
二升炊 六圓
三升炊 六圓五十錢
四升炊 八圓
主婦之友社生活館推奬



平市一丁目
武田陶器店
電話三二九番

外科
內臟外科
腦脊髓病科
外科
整形
整形外科
レントゲン科
理學病法科
醫學博士 松村亨
胃腸
內科
胃腸病科
肛門病科
性病
花柳病科
皮膚科
泌尿器病科
醫學得業士 松村鐵郎
松村醫院
平市南町　電一〇七

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
福島縣立代用精神病院
內務省指定
郡山腦病院
院長醫學博士 金磯五郎
郡山驛より約三丁
安積中學より五丁
郡山市外大槻村針生
（電話九二五番）
▽入院隨時△

市立高女校

愈々卅日の市會へ提案さる

三學級・四年制實現

本年度最終の平市會は日曜日に當る三十日招集に內定、全市民から期待されてゐる市立高等女學校案並に國民學校費、十五年度の諸事業繰越案等追加豫算案を上程することになり豫算編成を急いでゐる

市立高等女學校案は屢報の如く第五國民學校建設に伴ひ市內の教學區大改正を斷行し、現在の第二小學校（女兒）を廢校、從つて第一校及新設校とも男女共學に改め　第二校舍二棟を第一校へ移轉せしむる豫定である

市立高女の計畫は三學級四年制とし、移轉費、設備費內部模樣替費共總豫算九萬余圓を大部分寄附に求め十七年度の新學期から開校する

現在第二校の校舍五棟と講堂の內、二棟を第一校へ移して運動場二千余坪擴張、殘る三棟十八教室の內十二教室を除き六教室を事務室、校長室、特別室等に充てることになり從つて校舍と講堂の位置も幾分變更されるものと見られてゐる

資材難が原因し

繰越事業山積

國民學校追加は六千圓

別項、卅日の市會へ事業繰越として追加されるものは起債關係で延々と成つてゐる縣立工業學校の敷地整理その他約十萬圓を筆頭に

土木關係　では市役所前通り大田町馬目酒屋と停車場間市道の兩側溝改修・税務署横通り排水路改修、紺屋町と古鍛冶町間水（早川材木店から研町鈴木眼科前）を暗渠とし新道路とする等資材關係で着工出來ぬものが主なるもので二萬圓に上る

水道關係　十五年度の水道關係工事は主要資材が鐵製品のため殆んど配給無く繰り越されるものは設備費四千圓事業費五千圓、計約九千圓に上つてゐる

國民學校　新設關係の備品費追加豫算は六千余圓に止め、毎年新學期に少しつゝ整備して行く豫定である

平・江名線の難路

荒川の勾配、屈曲正す

新年度に着工か

既報、縣道江名、平線に於ける最難路と云はれる飯野村下荒川地內、同村役場から小學校前に至る間の堀割急坂は數年前換線計畫があつたがたま〳〵今事變による資材難に遭遇して施工に至らず交通關係者に憾みとされてゐたところ同村長伊藤淺之助氏の熱心な運動が功を奏し愈よ改修の機運を迎へ平土木監督所では去る十九日から六日間に亙つて測量を終へ設計々書に移つた同工事は延長七百米の最難區間の屈曲、勾配を正し、幅員擴張完全なルートを取るもので地元では伊藤村長の努力に對し相當の負擔にも應ずるもの〻如くである、工費は總額二萬五、六千圓を要する模樣で現在の十四分勾配から十八分に緩和され急カーブも除かれるなど交通上の利便は頗る大きく新年度に着工の運びがつけば明十七年三月末までには完成するものと見られてゐる

教科書の亂買抑制

平市で切符制實施

國民學校一、二年用教科書は新發賣であるだけに珍らしがられ入學適齡前の幼兒繪本代用に相當余分に賣出される豫想なのでこれに備へ文部省では切符制を實施して濫賣を防ぐことになつた

從來教科書賣上數は兒童數と甚だしく差があり中には買漁れの者も出る騷であつた、これは前記適齡前の幼兒に早く小學校の教科書を親しませようとする親心からで國民學校新教科書は學校數、兒童數に依つて各市町村賣店に割當てられてゐるため新入學兒童以外に賣捌くと不足を來すので切符制と成つたものである

平市の購入切符は今二十五日學校で新入學兒童に交付各々指定の書店から購入することになつた

戰時經濟講演

來月十二日市公會堂

平商報會主催

平商業報國會では縣の斡旋で企畫院委員日本國體研究所長緋田工氏を招聘し四月十二日午後一時から平市公會堂に於て國際情勢と戰時經濟に關する講演會を開催することに決定

ボヤ　二十五日午前十一時頃平市五町ブリキ職飯澤達治さん方から發火、大事に到らぬうちに消取めた、原因は同家台所の煙突の飛火

松崎上等兵

あす零時四十分平着

東亞建設の礎と成つた平市中平窪出身松崎光雄上等兵の遺骨は明二十六日午後零時四十五分着で懷しの鄉土入りをする

商店法が改正

四月から十時閉店

電氣、燃料の節約に加へ店員慰勞のため暫定的に定められた商店法の『九時閉店』が三月末日限り廢止され、四月一日から元の十時閉店に更へられることに成つた

平市の商店關係は特別の盛場はなし、商品に缺乏を來してゐる店が多いので九時制實施前から實際は九時頃以前に閉店する處が多く、十時制に閉店時刻が改正されても九時頃には閉店するものと見られ大した影響がない模樣である

小名濱豫算

無修正承認

總額卅萬五百九十八圓

小名濱豫算町會は二十三日午前十時開會、午後二時一讀會を了し散會二十四日午前九時再會無修正で正午には議了した、總豫算に三十萬五百九十八圓、內經常部十三圓四千三十一圓臨時部十六萬六千五百六十七圓也

高野縣經濟部長

廿五、六兩日石城・平初巡視

新任高野縣經濟部長は今二十五、六の兩日次の豫定で四ツ倉、平、植田署管內を初巡視する

（二十五日）廣野より午前十一時四十分四ツ倉町着、漁業組合聯合會、石城水產販利組合聯合會、藥種搾油工場、磐城セメント工場、石双乾繭組合を視察午後二時三十分同町發同二時四十五分神谷村農試石城分場に入り同三時五分發三時十分平市着、林產物檢查支所、片倉製絲工場、市役所、蠶業取締所、平鐵工機械工組合を巡つて四時三十分平發四時五十分湯本町着山形屋へ一泊（二十六日）午前九時入山採炭、同十時湯本發十時三十分、小名濱到着、役場水試（中食）石城水產販利組合聯合會、日素午後二時三十分、小名濱發泉二時五十分着鮫川疏水、同三時十分發四時三十分平着住吉屋一泊、翌二十七日午前八時三十分平驛發小野新町に向ふ

失念の爲か

法人税滯納

平税務から督促發す

今年度から新設された法人關係諸税は二十日納期に成つてゐるのに納税率極めて惡しく現在滯納額は

△法人税、千八百二十七圓五十二錢△法人臨時利得税五百五十一圓七十錢△法人營業税、百九十二圓六十錢と成つてゐる爲平税務署では今二十四日一應督促狀を發しこれに應じないものは直ちに强制處分することに成るから忘れてゐるものは直ちに納付されたいと語つてゐる

麥作を荒した

日素の煙毒

損害補償承認し解決

去る二十日、日本水素工場より南東の風に煽れて白煙が畑地へ吹靡いたため約三町步の青麥は何れも葉先きが眞白となつて枯死に瀕したので驚いた被害農民は二十二日鶯龜之助氏外八名を代表として日素工場に損害補償交涉した結果被害實狀を調查の上損害は補償する事に談合した

昨年も一回白煙に見舞れて農民を驚かしたことあり、この原因は一部工場に故障があつた爲め防毒施設より毒素が脫漏したものである

少年少女の胸おどる

中等校の考查開始

最難關の平工は欠席十九名

窄き門目ざして少年小女達の胸を痛める中等學校の入學考查第一日目がとう〳〵やつて來た、磐中最難關は定員七十名に對し二百三十余名の志願者を見てゐる平工業で、磐城高女これに次ぎ三百名の定員に七百七名の志願者が殺到、定員五十名增加の結果志望者の數がグット增加してゐる、平商は三百五十二名で前年に比較し僅かに十余名增加したのみで大差無く、磐中が定員五十名增加に拘らず志望者五百三十名に止つてゐるのは意外である、試驗最中の午前十一時頃磐中を訪ねて見ると、教員室も校長室もガラ空きで十一の試問室に三名の先生が居つて考查の眞最中だ、總動員といふわけだ、父兄控所に折角學校で上草履を出しておくのに、靴箱にそれが散亂してゐるのは心ない業だ。磐女は今日は身体檢查と体力テスト、甲班と乙班に分れて之も先生方總出動でやつてゐる。たゞし校長室は校長始め係の先生方が頑張つてゐて內申書の檢討に大童だ、溫室のあたりに日向ぼつこしてゐる志願者の顏は口頭試問でないからほがらかだ。なほ市內各校の當日の欠席者は次の通りで工業の欠席者の多いのが目につく。

	志願者	欠席者
磐中	五三〇名	五名
磐女	七七〇名	十六名
平商	三五二名	九名
平工	二三四名	十九名

忠魂合祀

一英靈神鎭まる

石城・平關係卅六柱

聖戰下に七度迎へる春季靖國神社臨時大祭に當つて新たに合祀される英靈一萬四千九百餘柱は、滿洲並に支那事變を通じ昭和十三年十二月三十一日までに至る戰死、戰病死、公務死の陸海軍人及軍屬で本縣關係三百六十餘柱の內石城平兩郡市は三十六を柱數へ尊き殉國の礎石として靖國神社に永へに神鎭まることに成つた

◇平・石城關係

△平市、陸軍步大尉廣瀨篤郎、仝輜重上等兵松本敎介△山田村、步中尉下山田通仝步伍秋山幹雄、工伍澤田明△小名濱町、步軍曹高木鶴吉、同步上等兵星野正雄同松崎重久、輜特一小磯順△內鄉村、步伍大崎陸夫△湯本町、步伍佐藤正行、同生田目繁次郎、步上三富竹藏、工上佐久間清、△草野村、步伍大平直通、同上等兵猪狩正雄、輜上渡邊三右衛門△勿來村、步伍淺沼義春、◇大野村、步伍木村子之松、步伍佐藤亮一、步上等兵戶田巳與次△泉村、步伍矢部一郎、輜上溝井正美△入遠野村、砲上平子淸△赤井村、砲上鈴木正三△鹿島村、砲上金成春治△夏井村、輜上坂本隆雄△澤渡村海二曹加藤淸尾△四倉町、輜重上渡邊二郎△豐間、工伍四家信太郎△田人村、步伍小林好男、砲五佐藤常雄△江名町、步伍比佐政吉△赤井村、鎌倉昕吉

公立中等校巡り【一〇】

入學生の心得

家庭の注意が最も肝要

磐城中學校の卷（七）

【入學者のために】

昨年度の入學志願者は五百九十五名、その中平市からの志願者は百二十九名、石城郡下が四百二十二名、双葉郡が二十九名、茨城縣十名となつてゐる。入學者を見ると平市は七十九名だから六割强石城郡下は百五十一名だから、三割强となつてゐる。即ち郡部から來たものに不合格が多いわけである。

入學者の學歷を見ると尋卒が二百十七名、高一修三十名高卒が三名となつてゐる。是は別に不思議もないが高等科から來たのは郡部の二十名が目についてゐる。

昨年の上級學校入學の成績を見ると、

高校	二〇	陸士	九
陸經	一	軍官	一
海兵	一	海機	一
幼年	二	高工	三三
秋鑛	四	高商	八
商大豫	二	高農	四
藥專	二	外語	二
藤原工	二	遞官	一
氣象	二		

となつてゐる。私立學校はあげてないがそれも相當の數であらう。二十五學級の學校としては好くもなく惡くもない普通といふ所であらう。高工が目立つのは時局柄といへよう。

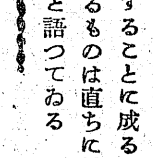
さて難關を突破して晴れの中學生となるにはどの位の學費が入用か、

授業科四圓廿錢、校友會入會金二圓、校友會費五十錢、保護者會費三十錢、合計七圓は當然四月中に納付すべき金であり、その他教科書十四、五圓、是は文部省が選定したから改正されるものが多いと見て舊教科書はあまり役に立たぬと見なければならぬそれに商業の所で述べたやうにノート二圓位の他柔劍道の道具はどちらか必ず入用だ、服裝は徽章をつけ、白線をつければ制服は新調するとすると今回縣で指定したものを作るわけだから小學校のまゝで好いことになつてゐる。しかし一年生には無理をしても新調して立派な中學生姿にして見たいのが親心で、特に長男でもあると、學校の禁止も物かは靴から帽子までも新調したくなるものだ、まして磐中のやうな競爭のはげしい學校は子供よりも親が優越感を持ちたがるものである。

山森校長は新入生の心がまへに就いて次のやうに語つてゐる。

本校に入學しようとする方は家庭で充分勉强の習慣をつくつておいてほしい。中學校といふ所は小學校と違つて學科も多いしむづかしくなるのだから勉强の習慣がないとなか〳〵追ひついてゆけない。それから家庭では生徒を學校にまかせきりでゐることも困るので學校と協力して子供を教育するといふ態度をとつてほしいものです。身体的方面は特に家庭の注意が望ましいことでして、すべての勉强も健康をもとにして意義があるわけです。

快適な筆觸
ウエル萬年筆
金貳圓より數十種
佐々木のガラスペン
一本金拾錢より
ガラスペン中の第一級品です、一度の御使用が永久の御愛用となる事請合
代理店
平市學校坂下
魁文堂
電話三一三番



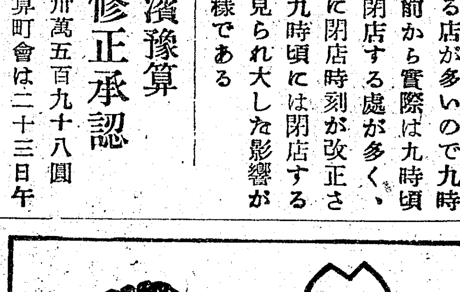
舊二月二十九日　水曜　癸酉　赤口　破　軫宿　新三月二十六日

▲一白　舊狀を守りて積極的に出でざるを安全とす
▲二黑　諸事通達すべき幸運日開店起業普請雇用吉
▲三碧　兎角物事の滿足を得ざる日長上に謀るが吉
▲四綠　萬事行詰りとなりて策の施し樣なし病注意
▲五黃　活動の自由過ぎて手落ちを生ずる事ある日
▲六白　運勢良好にて光明の輝く如し決斷に可なり
▲七赤　自分より不運の人ありと思ひて自重すべし
▲八白　氣運益良化して招かずとも吉福一家に滿つ
▲九紫　勇氣に任せて事を荒立つ可らず定業は繁昌

姓名新體制
鵜沼孝昌

生活は一年毎に深刻になつて世の中がます〳〵住みにくゝなり、人生の眞の歡喜と安心とは更に見出せなくなつた。
此生活に懊惱したり、先輩の無理解な壓迫に苦んだりし、それから全く逃れ切られないのや、また病難に遭遇するのは、一面からみれば自分の運命の道筋を和らないか、さもなくば自分の運命に逆ふ人であるといへよう。
それを早くも、名が惡いと感付いで改名して用ゐたならば、禍が身に迫る時はし體を變して之を避け幸運が來る時はその機會を巧に取捕へてその人としての最大幸福な生活を送り得ることは姓名統計に表はれてゐるこの自分の運を知る振出しは先づ己の名を知ることである、
宜べなる哉、德川家康は幼名を松平竹千代と云ひ、元服して松平元康となり、廿五才の時德川家康と改稱す元康を二ヶ年間使用して今川義元の人質を脫し家やすとなりて天下に覇をなすに至る。これ元康家康の改名よろしきためである【廣告】

春に魁がけて美味しい蜜豆を始めました
フルーツミツ豆
あんみつ豆
フルーツポンチ
ぜひ御試食を…
味本位の御食事と喫茶の店
福壽軒食堂
平驛前
電話二八番



天氣豫報

今晩　北東の風晴れ曇りますが一般に晴れです
明日　西の風一時曇りますが晴れ勝の天氣です

（二十六日）

滿潮　前三、四〇　後三、三五
干潮　前九、五〇　後一〇、〇〇

電話番號變更
新番號は『370番』
合名會社
平四倉
乘合自動車
電話三七〇番

石炭販賣
迅速、誠實
多少ニ拘ラズ御用命願ヒマス
平市白銀町（救世團跡）
磐新石炭店
蓮沼龍輔
電話七八七番

從業員募集
求人者　平市字仲町三　東北木工興業有限會社
求人數　男一〇〇名　女一〇〇名
職種　建具指物工及雜工
給與　男子日給一圓五十錢以上三圓五十錢迄　女子〃八十錢以上一圓五十錢迄
經驗者初心者共ニ歡迎
希望者ハ履歷書持參左記ニ申込ノコト
平市田町
平國民職業指導所
電話五六二番

女車掌募集
未經驗者を希む
【經驗者も可・本人御來談乞ふ】
平市二丁目
三井自動車商會
電話685番

世界的治療機
超短波　時代來る
四百四病の中『ガン』以外は必ず治るこ東京帝大眞鍋嘉一郎博士の證明するアコマ超短波治療器にて一日も早く如何なる難病も實驗治療して下さい
お試し下さい　十日間　程　無料實驗　朝八時より午後五時迄
福島縣代理店　川崎松之介商店
平市新川町一四